

文部科学大臣

下村博文様

# 国の施策等に関する 提案・要望書

(平成27年7月)

鳥取県自治体代表者会議  
鳥取県地方分権推進連盟

鳥	取	県	知	事	平	井	伸	治
鳥	取	県	議	会	議	長	正	一
鳥	取	県	市	長	会	長	義	彦
鳥	取	県	市	議	会	議	昌	光
鳥	取	県	町	村	会	長	哲	司
鳥	取	県	町	村	議	会	議	治
鳥	取	県	町	村	議	会	議	治

# 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた文化プログラムの取組への支援について

## 《提案・要望の内容》

○2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けた文化プログラムについては、地方がその特色や強みを活かして展開する芸術文化の取組を十分に盛り込むとともに、財政支援や国内外への情報発信を強力に進めること。

- ①アーティストインレジデンスを活用したアートプロジェクトなど、地域の活性化につながる地方の芸術文化活動に対する支援を行うこと。
- ②障がい者の芸術文化振興は、障がい者の自立と社会参加の促進に寄与するとともに、共生社会モデルの創発に繋がるものであり、全国的な取組となるよう支援を行うこと。
- ③とりわけ、カルチュラルオリンピアドとしての障がい者の芸術文化活動を振興するため、広域的に地域が連携して取り組む障がい者芸術文化の祭典の全国的連携開催などに対しては、より手厚い支援を行うこと。

## < 鳥取県における取組 >

### 1 「鳥取藝住祭2015～日常を拓くこと～」(AIR:アーティストインレジデンス)

- (1) 期間 平成27年6月20日から11月29日までの約6か月間
- (2) 概要 鳥取各地のNPOなど10団体が、国内外のアーティストを招いて滞在制作、展示、舞台など様々な取組を地域住民と連携して行うアートプロジェクト。

#### 【築90年の旧酒蔵を改装したアートギャラリーで展示】



#### 【地元温泉地で映画制作「浜村湯けむり映画塾」】



#### 【古い城下町を町ごと劇場に 劇団・鳥の劇場による演劇祭】



### 2 「あいサポート・アートとっとり祭り」「あいサポート・アートとっとり展」

- (1) 期間 とっとり祭り 平成27年10月3日～4日  
とっとり展 平成27年12月6日～平成28年2月4日
- (2) 概要 全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会の成果を引き継ぎ、障がい者が取り組む「舞台芸術活動」と「芸術・文化作品制作活動」の発表と鑑賞の機会を提供。

#### 【障がい者によるステージ発表】



#### 【障がい者制作作品展示】



### 3 「障がい者の芸術文化活動の全国発信」

- (1) 期 間 じゅう劇場 平成27年12月頃 (奈良県)  
荒神神楽 平成27年11月頃 (鹿児島県)
- (2) 概 要 全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会で行った全国に誇ることができる鳥取県の障がい者の舞台芸術を全国発信。  
あわせて、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた全国的な障がい者の芸術文化振興を有志の都道府県と連携して実施することを検討。

【障がいのある人とない人で  
創りあげた「じゅう劇場」】



【米子養護学校と日野高校  
による「荒神神楽」】



#### < 参考（昨年度開催した全国大会） >

#### ○ 「あいサポート・アートとっとりフェスタ」(第14回全国障がい者芸術・文化祭とっとり大会)

- (1) 期 間 平成26年7月12日から11月3日までの約4か月間
- (2) 概 要 「障がいを知り、共に生きる」を大会テーマに掲げ、全国大会では初となる秋篠宮妃殿下、佳子内親王殿下の御臨席を賜り、音楽、ダンス、郷土芸能などの舞台芸術を発表するとともに、県内外から多くの美術作品が出展された。各会場には、障がいの有無に関わらず多くの来場者があり、共生社会実現のための道が開かれた。(イベント来客数 延べ約43,000人)

【出演者、来場者一体となって「あいサポートの輪」】



【国際公募展「国際障がい者  
アート展」】



※ 「あいサポート」：鳥取県が発祥の「障がいと障がい者への理解を深めるとともに、障がいの特性に応じた配慮を行う運動」の名称。他の4県等とも連携して展開。全国のあいサポーター数は25万人に上る。

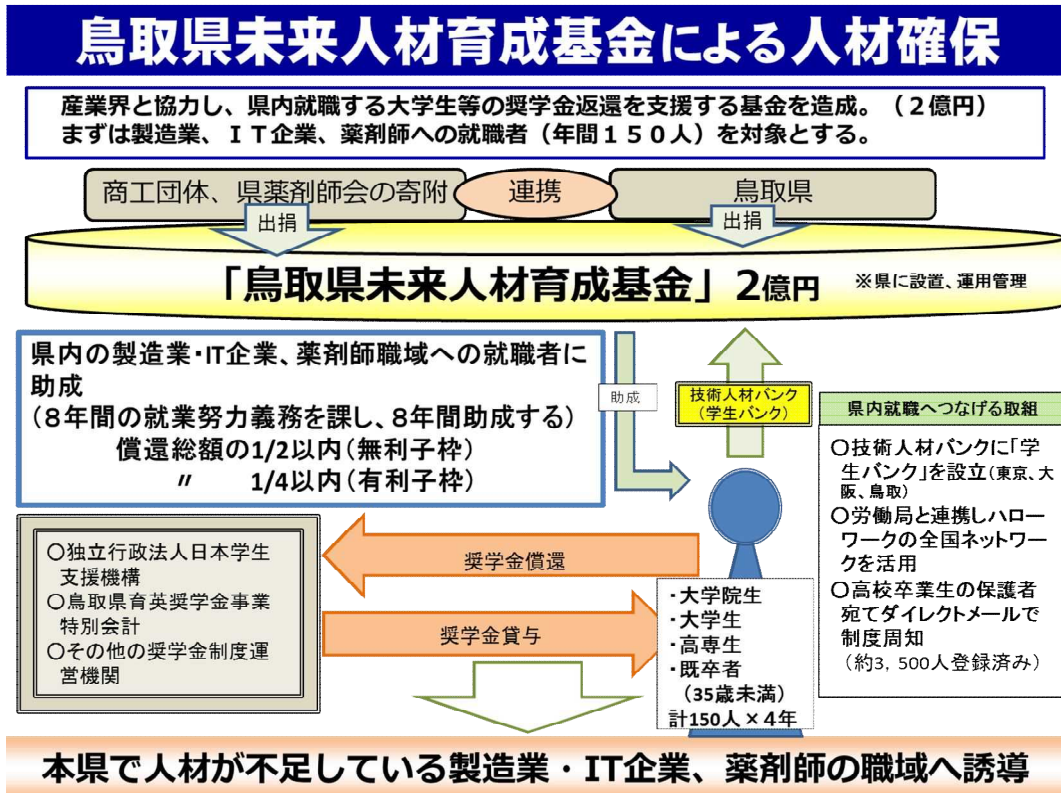
# 大学生等の地方定着のための奨学金に対する財政措置について

## 《提案・要望の内容》

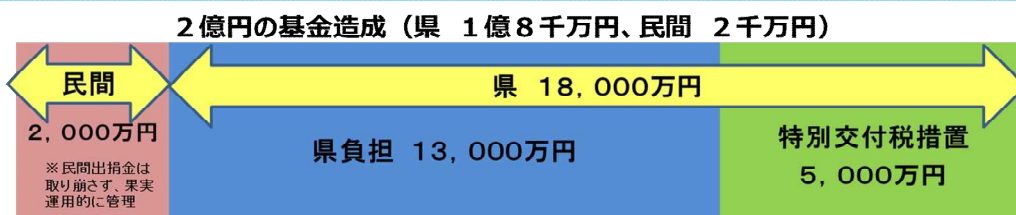
- 大学生等の地方定着のために奨学金返還を支援する基金について、制度を一層充実させることができるよう、民間企業等の出捐の多寡に関わらず地方自治体の出捐総額全体を特別交付税対象とするとともに、措置率を引き上げること。

## <参考>

### 鳥取県未来人材育成奨学金支援事業イメージ図



## 基金出捐イメージ図



### 特別交付税の試算

特別交付金対象出捐額 2億円

ただし、地方公共団体が、出捐総額の1/2以上出捐している場合は、出捐総額の1/2が対象(1億円)

**特別交付税額 5,000万円(1億円×1/2)**

※措置上限額 1団体当たり 各年度1億円が上限

区分	年度別基金積み立て額			単位:万円
	H27	H28	H29	
製造業・IT企業	○	○	○	
薬剤師(公務員は除く)	○	○	○	
助成率	1/2	1/4	無利子、有利子の区分のとおり	
助成の方法	助成総額を8年に分けて助成奨学金返済口座に振り込み			
助成の上限	院・業 216万 大学 144万 高専 72万	院・業 108万 大学 72万 高専 36万	無利子、有利子の区分のとおり	
対象人数	50人	50人	50人	
基金積み立て額(単位:万円)	20,000	18,000	18,000	18,000
累計	20,000	38,000	56,000	74,000
認定・推薦人数(単位:人)	150	150	150	150
累計	150	300	450	600

# 質の高い教育を実現するための教職員定数の充実について

## 《提案・要望の内容》

○学力向上やいじめ問題、発達障がいのある児童生徒の増加に伴う特別支援教育等の高度化・複雑化する教育諸課題へ迅速かつ的確に対応し、質の高い教育を実現できるように、以下のように教職員定数の充実・確保を行うこと。

- ・少人数学級の拡充のための教職員定数の充実・確保
- ・現代社会が直面する教育諸課題の対応のための加配教職員の充実・確保

## <参考>鳥取県の状況

### 1 少人数学級の状況

#### (1) 現 状

県独自にすべての小中学校（全学年）で実施中

- ・平成14年度から、小学校1、2年生で30人以下学級を実施。
- ・平成24年度から、国の計画に先行実施して単県費により小中学校の全学年で実施。

#### 【現在の本県の学級編制基準】

小学校	(1、2年生) 30人以下	(3～6年生) 35人以下学級
中学校	(1年生) 33人以下学級	(2、3年生) 35人以下学級

#### (2) 効 果

- ・児童生徒の生活面や学習面で一定の成果があった。

##### 【一例】

##### ①生活習慣面

○教育心理検査（hyper-QU）の学級生活満足群の結果が向上（A小学校）

H23. 5(小3) 70% → H24. 11(小4:少人数学級) 83%

H23. 5(小4) 55% → H24. 11(小5:少人数学級) 72%

○不登校生徒数が約3分の1に減少（B中学校）

5人(H22:1年のみ少人数学級)→13人(H23)→4人(H24:全学年少人数学級)

##### ②学習面

○民間学力検査における全国平均との差が上昇（C中学校）

+5. 2ポイント(H23) → +13. 6ポイント(H24)

- ・児童生徒一人一人に対する教員のきめ細やかな対応が可能となった。

##### 【一例】

児童生徒一人一人のノート指導を丁寧に行うことができるようになり、基礎的・基本的な学習内容の定着が図られた。

- ・小グループ学習において、児童生徒に十分な発表時間と発表機会が確保できたため、児童生徒の思考力と学習意欲が向上した。
- ・単なる知識の習得ではなく、習得した知識を活用する力を育てる授業へと転換できた。
- ・課題解決型授業（アクティブ・ラーニング）を効果的に進めることが可能となった。

### 2 加配教職員の充実による取組の方向性

- ・習熟度別指導、ティーム・ティーチングなどの少人数指導、小学校における教科担任制の導入など、学力向上の取組を推進する。
- ・通級指導教室など特別な支援を必要とする児童生徒や、不登校、いじめや問題行動等への対応の充実を図る。
- ・養護教諭、栄養教諭、学校事務職員等の専門的な職務に精通する教職員の充実を図り、「チーム学校」として組織的に学校運営を推進する。
- ・新学習指導要領に対応したICT教育やアクティブ・ラーニングなどを推進する。

## ジオパーク活動の取組への支援について

### 《提案・要望の内容》

- ジオパーク加盟地域では、ジオパークを地方創生の起爆剤として、学術研究者と連携し、観光や教育活用等の取組を進めており、こうした地域の取組を積極的に支援するための予算措置の充実を図ること。

・本県でも、山陰海岸ジオパーク推進協議会に職員を派遣したり、運営費を拠出して  
いるほか、山陰海岸学習館の整備や外国人対応職員の配置、ガイド育成、教育プロ  
グラムの作成など、独自の取組を行っているところ

- ユネスコの正式プログラム化について、今年秋に予定されるユネスコ総会で決定されるよう全面的な支援を行うこと。

・今年4月に行われたユネスコ執行委員会で、ジオパークのユネスコ正式プログラム  
化が、ユネスコ総会の議題とされることが決定されたところ。  
・ユネスコ総会の議題となることで、ジオパークの正式プログラム化はほぼ間違いな  
いと思われるが、遺漏なく確実に採択されるよう計らうことが必要。

- 学校教育や社会教育でのジオパーク活用を進めるとともに、各地のジオパークと連携してジオパーク自体の普及啓発と国内加盟地域の国内外へのPRを行うこと。

・国内外において、ジオパークの知名度はまだ低く、国レベルでのPRや、学校教育  
でのジオパークの活用（教科書への掲載等）などが重要。

### 《山陰海岸ジオパーク》

■テーマ：日本海形成に伴う多様な地形・地質・風土と人々の暮らし

- ・H22（2010）10月 世界ジオパークネットワークに加盟
- ・H26（2014）9月 世界ジオパークネットワークに加盟再認定



（鳥取砂丘）



（浦富海岸）



### 《主な取組》

- 保護保全活動

他のジオパークに先駆け、山陰海岸ジオパーク保護保全管理計画を策定し、ジオサイト（見どころ）の点検調査などを実施

- 調査研究活動

研究者や学生などの学術研究や調査を支援

- ガイドの育成

ジオガイドの資質向上と連携を図るため、研修会や交流会を開催

- ジオツーリズムの推進

ロングトレイルのコース整備・運用、モニタツアーの実施、旅行会社へのツアー造成支援などの推進

- 普及啓発・情報発信

エリア内でのウォーキング大会・スタンプラリー・写真コンクール、首都圏・京阪神でのPRキャンペーン、媒体を使った全国PRなど

- 国際会議の開催

平成27年9月に「第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム」を開催予定。